

地域経済の発展期待

七十七銀行と協定を締結

「登米市と七十七銀行の地方創生に向けた包括連携に関する協定締結式」は10月15日、迫庁舎で開かれ、市と七十七銀行(小野寺芳一常務取締役)が協定を締結しました。

七十七銀行は、企業誘致、創業や新規事業創出支援のほか、地方創生などで市に協力。互いの資源を効果的に活用しながら、地域経済の持続的発展につなげる内容が協定書に盛り込まれています。熊谷盛廣市長は「金融機関の持つ豊富な情報やネットワークを生かし、地域経済の持続的発展に向け、より連携を密に産業振興を進めていきたい」と期待を込めました。



協定書を手にする熊谷市長(左)と小野寺常務。小野寺常務は「民間のノウハウを生かして地方創生に協力したい」と語りました。

思い出は今も鮮明に

神奈川大附属中生と再会

神奈川大学附属中学校の学園祭「第34回くすのき祭」は9月29、30の両日、同校で開催され、登米市グリーン・ツーリズム推進協議会の会員14人が参加しました。

同校は、毎年登米市でファームステイを実施。生徒の家族とも交流することを目的に、毎年学園祭で新米、野菜や農産加工品などを販売しています。ファームステイ参加者の保護者、福元美奈さんは「子どもがお世話になってから、毎年この学園祭で農家さんに会えるのを楽しみにしています。子どもの成長の報告や年賀状のやり取りもしています」と再会を喜んでいました。



販売ブースではファームステイで登米市を訪れた生徒が、受け入れ農家と思い出を語り合っていました。

懐かしのハーモニー

市役所で童謡コンサート

はさま童謡を歌う会(吉田博子代表)の「ふれあいコンサート」は10月16日、市役所迫庁舎で開かれ、多くの来場者が懐かしい童謡と優しい歌声を楽しみました。

コンサートでは、童謡の「あかとんぼ」「あの町この町」や登米市市民歌などを来場者と一緒に合唱。会場は一体感に包まれ、美しい歌声のハーモニーが会場に響いていました。菅原暢子さん(83)＝東和町錦織1区＝は「童謡を歌う会の皆さんは、声が若くうらやましいですね。開催するまでいろいろ大変だと思いますが、これからも歌声を聞かせ続けてほしいです」と次の開催を楽しみにしていました。



立ち見が出るほど多くの人が訪れ、美しい歌声に耳を傾けていました。

異国文化に興味津々

北方小でアチェ人と交流

「インドネシア共和国アチェとの交流活動」は10月3日、北方小学校(児童188人、菅原克也校長)で開かれ、アチェ人3人と同校の4年生35人が交流しました。

交流会では、アチェ人が文化や食べ物、歌などを紹介。児童たちからアチェ人への質問タイムでは、初めて知る他国の文化や風習などに驚きの声が上がっていました。参加した高橋巧くん＝迫町山の内＝は「初めは緊張したけど、アチェの人たちが優しくて楽しかったです。クイズでは、今まで知らなかったアチェのことを知ることができて勉強になりました。また来てほしいです」と笑顔で話していました。



児童たちからは「アチェ人でもお祈りしない人はいますか」などのさまざまな質問があり、楽しみながら交流しました。

東北最大級のフリマ

市内外の4万5千人来場

「佐沼秋のフリーマーケット」(登米中央商店会協同組合主催)は10月21日、中江中央公園などで開かれ、市内外から約4万5千人が来場しました。

フリーマーケットには、約410の雑貨や骨董品、飲食物のブースが出展。自衛隊や消防の体験コーナー、登米市出身の柳ジュン氏、松本蛍氏などのステージイベントなどもあり、会場は大いに盛り上がりました。佐々木秀太郎さん(39)＝迫町中江＝は「家族4人で来ました。自衛隊の乗り物体験や多くのおもちゃの出品があり、子どもたちが楽しそうだったので来て良かったです」と目を細めていました。



秋晴れの中、出展者と来場者は会話や値段交渉をしながら買い物を楽しみました。

人生で縁のある場所

隈氏が登米への思い語る

2020年東京五輪・パラリンピックの主会場となる新国立競技場を設計した建築家隈研吾氏の講演会(県、とよま振興公社主催)が10月13日、登米公民館で開かれました。

隈氏は「『場所の力』森舞台～新国立競技場～新登米懐古館(仮称)」をテーマに講演。森舞台や現在建設中の新登米懐古館(仮称)をはじめ、携わってきた建築物を紹介しながら思いを語り、来場者約450人が熱心に耳を傾けました。西ノ宮啓太さん(27)＝仙台市＝は「隈氏の設計に向き合う姿勢と思い入れを聴きました。講演の内容を、自分の仕事にも生かしていきたい」と力を込めました。



「森舞台の設計当時、地方の素材の面白さ、木の素晴らしさに気付かされた。登米は、私の人生にとって縁のある場所」と語る隈氏。